

大企業の風格は森にありました

研 研究所の側に、ぎょうさん木のある大きな森がありました。この研究所は二〇一五年の末に設立されていますから、

森の年齢も同じようなものでしょう。

それにしても、昔からあるような懐かしい佇まいでした。それもそのはず、この森は、北摂、昔の国名で言うところの摂津の国北部、つまり、今の大阪府北部を指すんですが、その北摂の山にある木の種類や生える密度を、参考にしたもののやらしいです。

その数で言うと、高木約七〇種・七〇〇本、中木約五〇種・一二〇〇本、低木約六〇種・八〇〇〇株、芝生などの地被類約三〇種・四〇〇〇〇株が植栽されているといいますから、植えた企業の熱意がされますなあ。

今は小鳥がさえずり、ホテルもおるといいます。この森は、となりの研究所の職員が、仕事に飽いたとき、視点や発想の転換が図れる場づくり、リフレッシュできるような場所、として設けられたそうです。

海外では、広い土地を利用して森の中にあるような企業があると聞くけど、日本の、しかも土地の狭い大阪で、こんな環境はなかなか見られませんねえ。研究に疲れたら、憂さ晴らしにパチンコやら飲みに行くのやなくて、森の中を散策して、せせらぎの音を聞き、四季折々の花を愛でる……。

いやあ。僕等、中小企業がいかに職場の環境をようしようと思っても、かないませんなあ。こんなには。

まさに大企業というのは、こういう余裕、風格を持つから大企業なんでしょう。なかなかありませんねえ、当世は。

この森は、大阪府の「みどりのまちづくり賞」で、大阪府知事賞を受賞しています。

森の名は「テクノロジー・イノベーションセンター（TIC）の森」と言います。

そして、森をつくった企業の名前は、ダイキン工業と言います。

**空調関係の売上高では
なんと世界一の企業なんです**

ダイキン工業さんは、元々、大阪金属工業という名前でした。名前の示すように、大阪市に本社を置く大阪の会社です。

首都圏では、ネームバリューが今一つですけど、空調関係の売上高では、なんと世界一の企業なんです。その他にフッ素化学製品では世界二位、換気やフィルター事業でも世界一位という、まさに「空気で答えを出す会社」です。現在の会長の井上礼之さんは、ダイキン工業さんを、国際的トップクラスの企業にした人です。



●(株)アオキ取締役会長
青木 豊彦 (あおき・とよひこ)

1945年大阪府生まれ。1997年(株)アオキは航空機メーカーのボーイング社の認定工場に。また東大阪の技術力を生かし人工衛星「まいど1号」を開発、2009年に打ち上げ成功。その後無人垂直飛行機「AKITU」も開発に成功した。2014年4月、国立和歌山大学客員教授に就任。2016年には大阪市立大学学長特別顧問に就任。2020年、国立滋賀医科大学学外有識者会議委員に就任。(一財)ものづくり医療コンソーシアムの理事も。



義を実現しようとしている人ともいいですか。興味のある人はネットを引いてみてください。

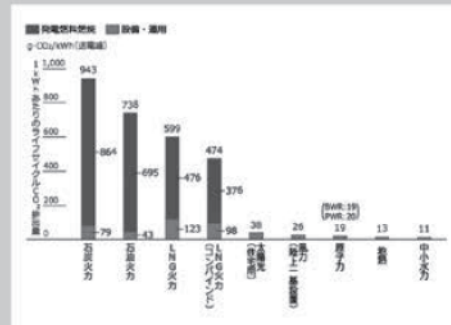
さて、現在のダイキンさんの従業員は約八万人超で、世界一六〇か国で事業を展開しています。そんな大企業の研究所が、みどりの森を持つてるTIC、つまりテクノロジー・イノベーションセンターです。僕もいろんな企業に行つて研究所見せてもらいましたけど、ここの規模はすごいです。TICにダイキンさんの展開している世界中の国々から、研究者が集まればええなあ、と僕は思います。

何でかと言うと、話は少し飛びますが、この夏は、東京オリンピックががありました。日本の選手はよう頑張りました。中でも柔道のメダル獲得数が光りました。柔道が強くなった理由は

電気を使うことでCO₂排出量が増えるワケ

「地球温暖化を抑制すべし」で見たとおり、大気中のCO₂濃度が増えているのは、石油や石炭などの化石燃料の使用が増加したことが原因。そこで思い出したのは、私たちが家庭で使う電気は、発電所で石油や石炭を燃やして作られているという事実です。風力発電や水力発電など複数の発電方法の中で、日本では、化石燃料を燃やす火力発電が全発電量の約8割を占めています。つまり、私たちが電気を使えば使うほど、その電力を作るために発電所で多くの化石燃料を燃やしてしまうことになるのです。

各種電源別のCO₂排出量



出典: 日本原子力文化財団「原子力・エネルギー図集」

●売上げ世界1の空調関係メーカーのHP「エアコンと温暖化の関係」には日本原子力文化財団の図が引用されている

僕が尊敬しているのは、ようこのコラムに出てくる原丈人さんと、この井上礼之さんです。原さんについて、何回も説明していますけど、公益資本主

いろいろあるでしょうけど、その一つにルールの変更があります。軽いポイントの「効果」や「有効」がのうなって、「技あり」と「一本」で競うという、日本にしたなら、当たり前前のルールに戻ったからです。柔道を例に挙げましたけど、日本は今まで、欧米のルールにひたすら従ってきました。

日本の標準を世界に展開する拠点に、研究所を使わないと

これからは、そやなくて、日本の標準を国際的に展開していくかならないんやないでしょうか。そんな拠点の一つとして、研究所を使わないといけないんやないかと思えます。世界から人を集め味方にしてね。

そうはいっても、まだまだ電圧の不安定な国や、インフラの未整備な国が多くあります。そんな国にも対応できる製品が必要です。また製品の質とは関係ないけど、鍵のかかる冷蔵庫が必要な国もあるそうです。

つまり、雇ったお手伝いさんが勝手に物持って行かないように、またそんな疑いでトラブルが起きないようにするためやね。日本やったら、考えられませんが、これが世界の実情かもしれないですなあ。

そんなこんなを含めて研究所というのが、どうあるべきか。「テクノロジー・イノベーションセンターでは、世界No.1の技術を構築し、夢のある商品・新たな価値創造を目指します」という米田裕二センター長さんのメッセージに期待したいもんです。